

## 令和5年度 学校関係者評価委員会

- 開催日時 令和5年11月1日(水) 16時～17時30分
- 開催場所 鹿児島県医療法人協会立看護専門学校
- 参加者 学校評価委員7名(敬称略)

鹿児島大学教育学部准教授	高谷 哲也	(非常勤講師)
パールランド病院 看護部長	吉松 昌代	(実習先病院)
米盛病院 4階西師長	前島 瑞枝	(実習先病院)
特別養護老人ホーム青松苑 看護師長	上稲葉 正紀	(非常勤講師・卒業生)
日高院 看護師	中園 結衣	(卒業生)
	久保 安子	(保護者)
	米森 正春	(地域)

### 学校側4名

副校長	小牧 和代
教務主任	廣森 五十鈴
事務長	萬 英治
教員	福元 奈菜

### 1 開会・副校長挨拶

学校が日ごろ行っている取り組みを今回知っていただく機会となるよう、また、学生にとってより良い環境となるような意見交換会の場としたいと考えている。

### 2 自己紹介

学校側・学校評価委員

### 3 令和4年度学校自己点検自己評価の説明

#### 【総合評価(副校長より報告)】

令和4年度は102単位へと大幅に教育内容や編成が変更となった新カリキュラムの開始年度となり、コロナ禍の影響が続く中での慌ただしいスタートとなった。実習は感染対策を続行しながら臨床との連携で可能な限り効果的に実習が行えるように取り組んだ。

#### 【教育理念・目的・育成人材像について】

設置主体の求める人材育成、教育理念を再度考えるにあたり、人材育成について具体的なレベルまで振り返る機会があった。教員間での共有は行えたが、設置主体の求める像を周知してもらう工夫が今後の課題となった。

#### 【学校運営について】

「事業計画の決定」「人事や賃金での処遇に関する制度の整備」が昨年度よりやや低下して

いる。今後も検討が必要な項目である。

#### 【教育活動】

新カリキュラム開始により、各教科担当者はシラバスに沿った具体的な授業案を作成・実践していく中で迷いも生じていた。今後振り返りを行いながら検討する。

#### 【教育成果】

今年度は県内就職者と助産学科への進学者で9割越えを維持しており、地域で活躍する人材育成に貢献している。課題としては学力の二極化に対応した学習支援への取り組みである。

#### 【財務】

コロナ禍で社会状況の変化に対する不安から中長期的財政に対する評価減少につながった。学費を上げずにいるため、収入が上がっていないことも関連している。今後どのように考えていくべきか検討する。

#### 【法令等の遵守】

12月に県の現地実地調査行われ、適正に教育活動が行われていることが認められた。

### 4 学校の現状報告

- ・今年創立60周年記念の行事があり歴史的な行事であるため、学生にも価値のある行事であることを伝える。
- ・学校施設が経年劣化により所々修繕が必要になってきており、修繕費用もかかっている。
- ・少子化もあり、学生募集が厳しい現状にある。
- ・1学年40名なので総数120名のところだが、現段階で学生が10名少ない。理由は、進路変更や体調不良などである。学生本人と何度も面談を行い、自己決定ができるよう支援している。
- ・入試委員以外の教員とも協力し、高校訪問を実施している。その際、高校側の質問や意見などを聞くことで学校説明会に活用できている。
- ・来年度は全学年が新カリキュラムとなる。
- ・コロナ禍で感染対策は行いつつ、学校行事は少しずつ緩和している。戴灯式では一家族一人までで保護者にも出席していただいた。

### 5 検討

議長選任を行い、高谷哲也委員を議長に選任

<議案>

1)本校の自己点検自己評価・学校運営について意見交換

高谷委員より

学力格差、生活管理能力が低いことに関して、学校では実際どのような現状なのか。

## 回答

- ・学生の現状として、勉強の仕方がまず分からないという学生が多い。覚えるだけの学習で、理解には結びついていない。また、指導するものの素直に入っていない。教育として新カリキュラムに「アカデミックスキル」という科目を置き、その中で文章の書き方や学習方法、グループワーク等について教えている。
- ・あいさつができない、時間管理ができない学生がいるのも現状としてある。
- ・吉松委員より  
学力の差に関して、学生においては学校ごとの格差はそれほど感じない。しかし、就職して現場に出た時に明らかな差は出てきていると感じる。
- ・前嶋委員より  
患者さんとのコミュニケーション、挨拶は出来ているが、スタッフへの挨拶やコミュニケーションは少ないように感じる。新人として現場に出た時に、現場が求めている事と新人の現実ギャップがあり、そのギャップを埋めることが難しい。
- ・上稲葉委員より  
コロナの影響で常にマスクを着用するようになり、中々表情を読み取り相手の感情を想像する力が弱くなっているように感じる。また、自分の考えや思いを相手に伝える力も弱い。

## 久保委員より

子どもが発熱し、自宅待機となった際、オンライン授業で対応していただきありがたかった。

## 回答

- ・コロナ禍だったため、オンラインでの受講措置が可能だった。今後は行政からの通知や、社会変化を踏まえて対応していく。

## 吉松委員より

現場では記録をパソコンで行うため、ある程度学校でパソコンでの記録や扱いに慣れておくと働く際にスムーズに行くと考えます。

## 回答

- ・個人情報保護の目的や専門用語を書けるように、手書きでの記録は継続している。しかし、活用できる部分においてはパソコンを活用して学習をしている。活用できている学生と上手く活用できていない学生の差が生じているのが実情。
- ・高谷委員より パソコン使用に関連して  
パソコン等のタスク処理と手書きでの知識獲得の2つを分けて学校で考えないといけない。このジレンマがあるが、学校が手書きを残すのは知識獲得を育んでいると考える。2つのバランスを考えていくことが必要。

事前に米森委員から寄せられた質問に副校長が回答

- ①令和5年度の入試受験者数は？ 69名
- ②車とオートバイ通学者は？ 97名

米森委員より

- ・今年9月、80歳男性が50ccオートバイで走行中、低血糖で農協の壁に激突。
- ・今年初め、70歳女性が三叉路の正面にぶつかり大破。床屋の看板にもぶつかっていたが本人の記憶はなし。学生が事故を起こした報告はないが近隣で事故は起きている。学生にも安全運転、特にゆとりをもった登下校の指導をすることが大事。

## 2) 地域が求める看護師像について

副校長より

新カリキュラムの中では、暮らしている人を支える看護を意識している。実際に地域で暮らしている立場から、求める看護師像を聞く機会にしたい。

回答

- ・共感することを大切にできる看護師。色々な方の価値観に触れる機会を作ってみるのも良いのでは。
- ・元気で明るい人。
- ・丁寧で、真摯に向き合える人。
- ・配慮を考え、話をしっかり聞ける人。
- ・尊厳を持って、ひとりの人として対応していける人。
- ・若い人が頑張っている姿を見ると元気が出る。
- ・精神的な面で支えられる看護師。技術は後からついてくるため、根底となる部分を育ててほしい。

学生像として伝えているが、日々の慌ただしい中で埋もれていってしまっていた。教育の中で、できていることを学生に伝えていくことが大切だと感じる機会になった。また、教員でも共有していく。

## 3) 次年度に向けての確認

- ・新カリキュラムの成果…環境が厳しくなっていく中でも成果として表現する必要がある。
- ・地域の声を聴くことができたため、その声を活かして次年度の看護師教育を行う。
- ・新カリキュラムの単位をしっかりと取得できるように学習支援していく。
- ・次年度も同じような時期に開催する。

## 6 閉会